

報道機関各位

教育委員会生涯学習課

タイトル 赤穂市立歴史博物館 体験！塩俵 の公開開始

下記のとおり報告いたしますのでよろしくお願いいたします。

行事・事業名	歴史博物館特別展 体験型塩俵模型の公開開始について
日時	令和2年11月21日(土)～
場所・住所	赤穂市立歴史博物館2階特別展示室前・1階展示室
趣旨・目的 (PRしたいこと)	『「日本第一」の塩を産したまち 播州赤穂』のストーリーが日本遺産に認定されたことを受け、赤穂市立歴史博物館では来館者に赤穂の塩業についての理解を深めてもらうため、体験型の塩俵展示模型を制作、特別展「播州赤穂の塩づくり」展に合わせて公開を開始する。
問い合わせ先	部課係名：生涯学習課 ・ 赤穂市立歴史博物館 担当者名：橋本・東 木曾 電話：0791-43-6858 0791-43-4600 FAX：0791-43-6895 0791-45-3501

添付資料 (☉・無)

○ホームページへの掲載 (☉・無)

# 歴史博物館ハンズオン展示塩俵について

## 1 概要

令和元年度に播州赤穂の塩づくりが日本遺産に認定されたことを受け、歴史博物館では来館者に赤穂の塩業についての理解を深めてもらうため、重さを体験できる塩俵模型を制作した。

11月21日（土）からの特別展「播州赤穂の塩づくり」展の開幕に合わせて公開を開始する。特別展期間中は2階特別展示室入り口外に設置、終了後は場所を赤穂の塩業に関する展示をしている1階展示室に移して運用する。

## 2 形状・材質等

### (1) 形・規格

明治40年の専売制施行以前に使用されていた円筒形の塩俵形状。

赤穂で最も長期間、多く製造されていた5斗俵での再現。

### (2) 重量

45kg（赤穂塩5斗俵の重量）

### (3) サイズ

直径約42cm、高さ40cm

### (4) 材質

表面：FRP樹脂

芯：鉄

ハンドル：鉄に銅フィルム巻

### (5) 装飾

底面以外の表面は俵の形状を模し、残存している歴史博物館の塩俵（1斗俵）の質感を立体感・色について、再現。表面は実際に藁で俵を制作し、そこから型取りを行い制作した。横縄は双子撚りの1.5cm程度の太さの二重縄で三筋掛け、縦縄は双子撚りの1.5cm程度の太さの二重縄で五筋掛けとする。

### (6) その他

天面左右に持ち上げの便宜のため環状のハンドルを2個埋め込み。

俵の場所が移動しないよう、俵底部にチェーン（20cm程度）を埋め込み、先を台の中央に固定した。

## 3 展示場所

赤穂市立歴史博物館2階展示室（令和2年11月21日～令和3年1月19日）

赤穂市立歴史博物館1階展示室（令和3年1月21日～）

◆◆文化情報赤穂 秋号より◆◆

～体験！赤穂の塩俵～

歴史博物館では日本遺産認定を受けて、塩俵のハンズオン（触って体験できる）展示模型を制作しました。

塩の包装は明治38年（1905）に国による専売となってからは、全国統一の塩<sup>かます</sup>俵に移行しましたが、それ以前は生産地により外装も容量もまちまちでした。赤穂の場合、稲藁製の縦置き円筒型の俵を用いており、差塩（苦汁を多く含む下等塩）俵は明治20年（1887）に3斗5升入と定められる以前は5斗、4斗入が長く用いられてきました。俵入りの塩は時間が経つと目減りすることが普通で、江戸に輸送した場合、酷い時は4割程も少なくなっていたようですが、今回は俵詰めした時点の5斗入での再現を試みることにしました。現存する5斗入塩俵は無く、寸法も重さも不明でしたが、他塩業地の記録を調べていくうちに直径40～42cm、高さ40cm程であったことが分かりました。また体積あたりの塩の重さは苦汁<sup>にがり</sup>などの含有量の差により産地によって異なっており、赤穂の場合5斗の塩は12貫であることが分かりました。1貫=3.75kgですので45kgとなります。フォークリフトなど無い時代にこれを何十個も日常的に人力で運んでいたことを想像すると先人たちの逞しさを感じずにはいれません。

模型は特別展の開幕に合わせて常設展示として公開します。ぜひ持ち上げてみて当時の浜男や上荷たちの浜の仕事に思いを寄せてみてください。